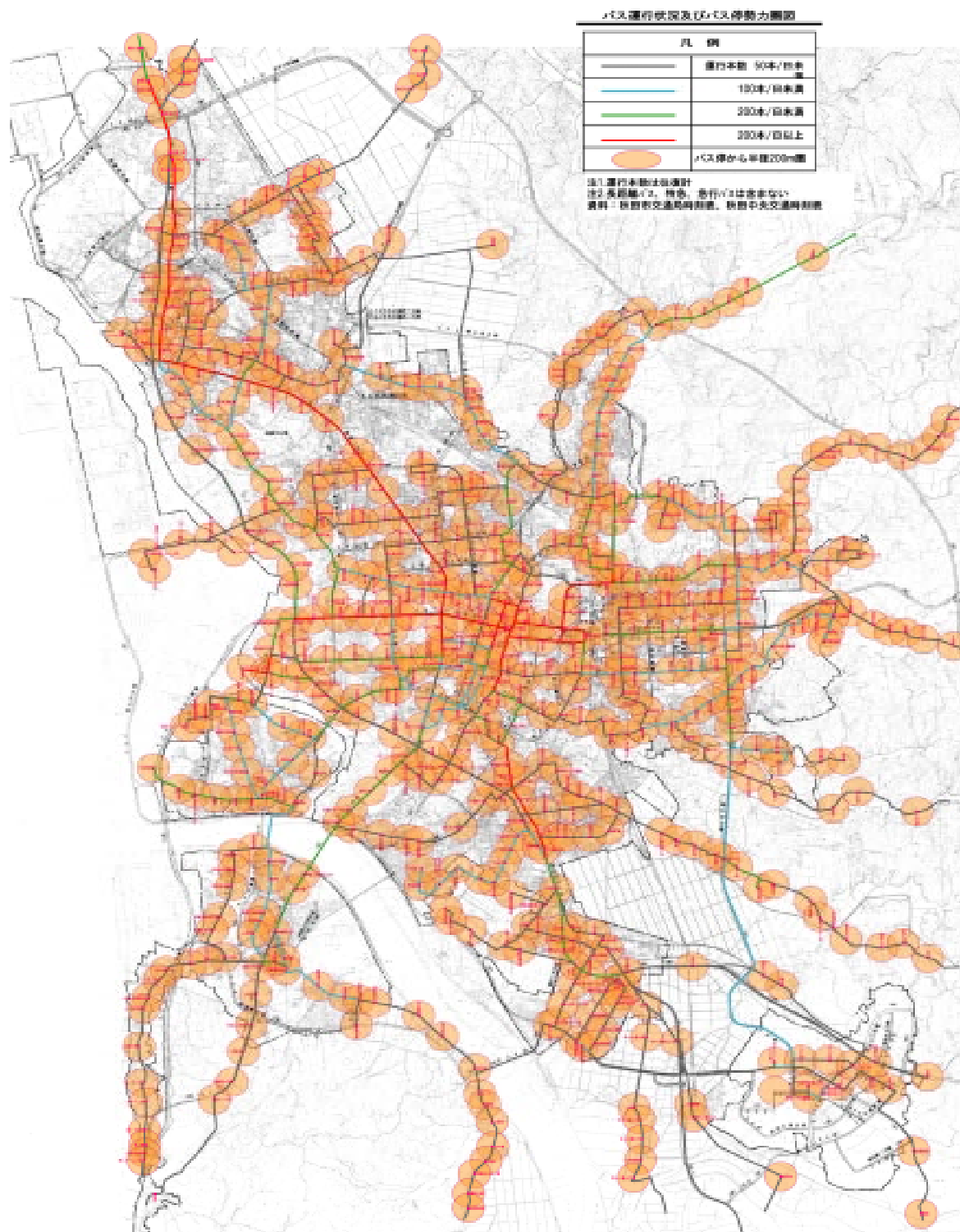


秋田市のバス交通の現状について

(1)運行状況

- ・ 秋田中央交通株が、現在、59路線184系統の乗合バスを運行している。
- ・ バス路線は、市内のほぼ全域をカバーしている。
- ・ バス路線は、秋田駅を中心に配置され、(通称)新国道、竿燈大通り、(通称)牛島本通りに多くの路線が集中している状況にある。

図 1 - 1 市内バス路線図



(2) 輸送人員と運送収入の推移

・輸送人員、運送収入ともに10年間の平均で約6～7%の減少が続いている。

表2-1 輸送人員と運送収入の推移

(単位：千人、百万円)

年	輸送人員	前年比	平均減少率	運送収入	前年比	平均減少率
平成10年	15,903	6.8	6.2	3,250	7.6	6.3
平成11年	14,313	10.0		2,840	12.6	
平成12年	14,241	0.5		2,809	1.1	
平成13年	12,618	11.4		2,558	8.9	
平成14年	11,625	7.9		2,390	6.6	
平成15年	10,590	8.9		2,204	7.8	
平成16年	10,114	4.5		2,093	5.0	
平成17年	10,034	0.8		1,995	4.7	
平成18年	9,151	8.8		1,853	7.1	
平成19年	8,908	2.7		1,818	1.9	

図2-1 輸送人員の推移

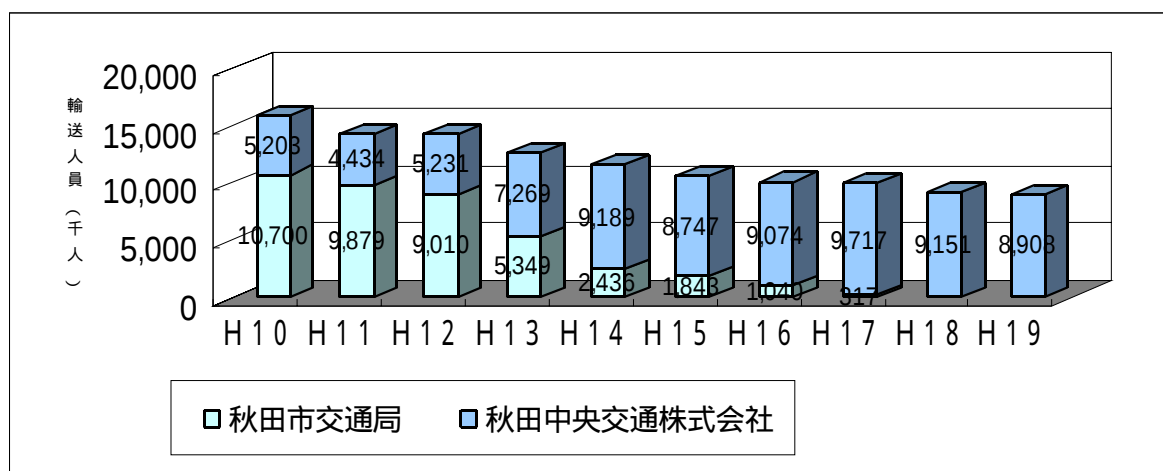
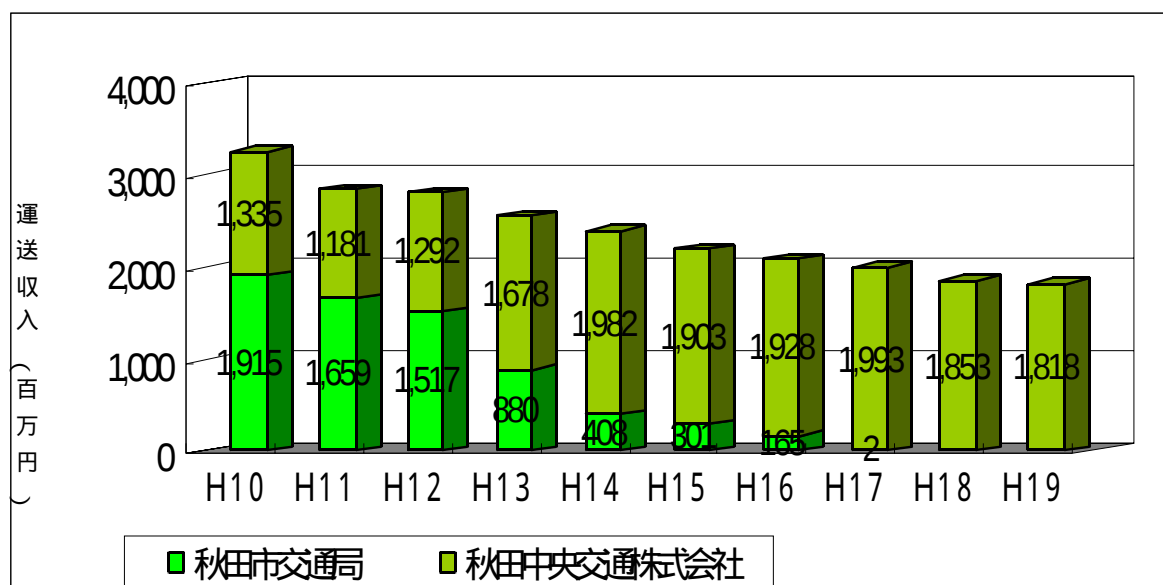


図2-2 運送収入の推移



(3)バス路線の収支状況と今後の推計

- ・市内の189系統の内、**約70%の129系統が赤字**である。
- ・赤字額は約4億8千万円である。黒字路線の約1億円を加えても、全体収支としては、約3億8千万円の赤字であり、その約68%である2億6千万円を国・県・市で補助している。
- ・**赤字額の大きな路線は雄和循環バス、岩見三内線、太平線、仁別線等の市郊外部や五城目線等の近隣市町村へ向かう路線**が大部分である。
- ・100円の収入を得るための費用が大きい路線は、雄和循環バスで597円、雄和線で159円などとなっている。
- ・委託運行等を実施しなかった場合、**市の補助金は平成22年において、平成16年時の約2倍の約3億6,800万円**となる。
- ・市内の**乗合バス事業の補助金を含めた最終収支は、平成15年からマイナス**となり、**平成22年においては、マイナス5億2,800万円**となる。

表3 - 1 平成19年度 収支状況

(単位：百万円)

	路線-系統数	収 入	経 費	収 支	補助金	事業者負担額
赤字	49-129	957.5	1,438.0	480.5	256.0	120.0
黒字	13- 60	555.0	450.5	104.5		
計	62-189	1,512.5	1,888.5	376.0	256.0	120.0

図3 - 1 秋田市地方バス路線維持費補助金の推計(委託運行等を実施しない場合)

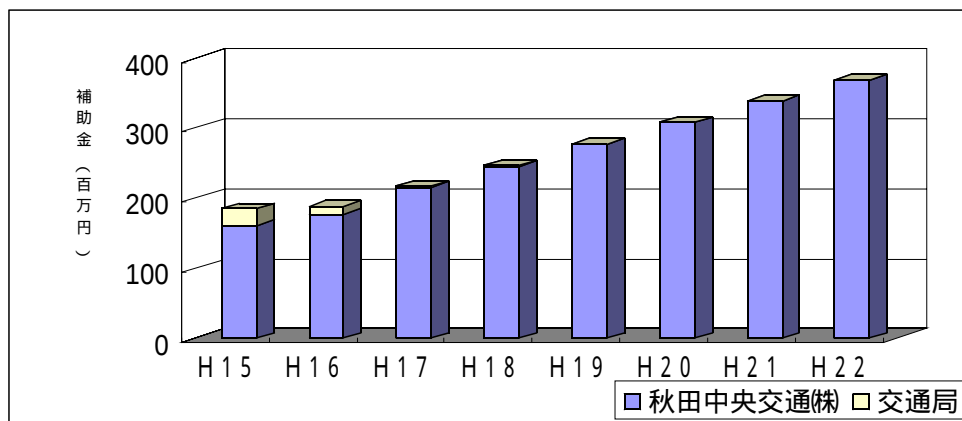


図3 - 2 乗合バス事業の収支の推計 (委託運行等を実施しない場合)

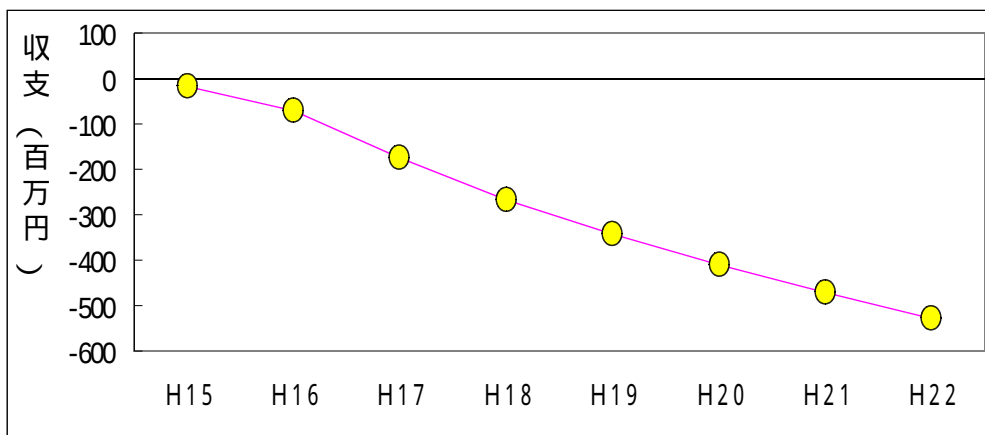


表 3 - 2 主な赤字路線

上位10路線（単位：百万円）

No	路線名	収入	費用	収支	費用/100円収入 (円)	備 考
1	雄和循環バス	11.5	68.7	57.2	597	雄和地区内環状線
2	岩見三内線	28.9	70.2	41.3	243	駅西口～和田～岩見三内
3	中央交通線	29.7	60.2	30.5	203	駅西口～大川反車庫
4	五城目線	53.4	81.3	27.9	152	駅西口～五城目バスターミナル
5	仁別線	27.0	53.6	26.6	199	駅西口～手形～ザ・ブーン
6	太平線	33.8	59.6	25.8	176	大川反車庫～太平～岩見三内
7	船川線	18.2	42.6	24.4	234	駅西口～みなと市民病院
8	雄和線	31.1	49.5	18.4	159	駅西口～仁井田～雄和
9	上北手線	11.7	25.3	13.6	216	駅西口～牛島～古野
10	東営業所線	9.2	20.5	11.3	223	駅西口～明田～東営業所

雄和循環バスは、料金を100円/回としているため収入が少ない